全與国州 市全体 0 ŧ 0 h に育

17年に自身が水沢25歳厄年連
和
西
工会議所職員に転職し、昨年
の第5回から事務局としてかか
の第5回から事務局として携わ
るようになりました。自分が厄
年活動を経験したこともあって
特別な思い入れもありますが、
何より『地元が明るく元気にな
れる催しに』という思いで祭り
の運営に当たっています。
の運営に当たっています。
の運営に当たっています。 0 一支和まつ 翌18年に水沢 春祭り

らこの祭りが企画されました。 おたしの前の担当者が、水沢、 江刺、前沢の歴代厄年連30団体を1軒1軒歩いて出演を打診。 水沢と江刺の厄年連13団体が参加し、第1回の干支和まつりが は、名称を「干支和」に変更し、 さらなる発展を目指しています。 で運営してきましたが、6回目 となることしは、干支和単独で 実行委員会を組織しました。こ れは年を経て出演側の「熱が冷 めないように」することと、「継 が、出演団体主導のまつりにし たいとの思いからです。 たいとの思いからです。

ことし一番の成果は、本年度 の水沢・江剌・前沢の25歳厄年 連が合同で一つの演舞を披露し たことですね。当日披露した演 をことですね。当日披露した演 で若者らしく躍動する25歳厄年ナーレ会場で、息の合った演舞

りにできないか」という思いかのに年連(年祝連)の創作演舞をですが披露する機会をつくれないか」で自然的な盛り上がりを見せる カン

ジナル演舞ができれば、見てもできればと考えています。そしできればと考えています。そし ります。 と水い沢 らうだけでなく、誰でも参加でジナル演舞ができれば、見ても ためにも、 いう意識も、まだまだ強くあ沢の祭りに呼ばれて参加する水沢で始まった祭りなので、 そうした温度差をなく 水沢だけでなく、

きる祭りへと成長していきます。 きる祭りへと成長していきます。 まずは、年齢や地域を越えた、 「奥州市全体の祭り」という存在になってほしいですね。 祭りを立ち上げた前担当者から、「干支和」という名称の由来を聞いたことがあります。「干支和」という名称の由来を聞いたことがあります。「干支し、祭りを立ち上げた前担当者か、 祭りを立ち上げた前担当者し、祭りを立ち上げた前担当者の、 祭りを立ち上げた前担当者の、 祭りを立ち上げた前担当者が、 祭りを立ち上げた前担当 者の熱い思い。わたしがになって次代につなげてになって次代につなげてとが、祭りの発展につないとが、祭りの発展につないではない。 わたしが引き継 厄年連と一緒

さた彼らが、一つ 強く思うようになりました。 さんの人たちに知ってほしいともあり、この祭りをもっとたく な光景でした。 になれるんだ」 して良か た」という充実感 と感じる感動的 支和の担当

水沢で始まっ

●第6回干支和実行委員会事務局

宮澤 孟さん(28) =水沢区寺小路=

昭和56年生まれ。県立水沢高 卒業後、福島大で学ぶ。営業 職を経て18年4月から水沢商 工会議所(現奥州商工会

議所)職員。振興課で干 支和事務局を担当。









- この「干支和」の取り組みについてお聞きしました。その点に着目した担当者の思いは、奥州市から『全国発信』が、全国ではほかに例がない取り組みといわれています。沸かせます。市内ではおなじみの「厄年連の創作演舞」です 沸かせます。市内ではおなじみの「

 同年車の削作資産・では客を

 歴代厄年(年祝)団体が集結し、熱気あふれる演舞で観客を (年祝連)の創作演舞にスポットを当てたものです。市内のこの祭りは、水沢・江刺・前沢区の伝統になっている厄年連の年8月に水沢区駅通りを会場に行われている「干支和」
- ●初の合同演舞で1つになった水沢・ 江刺・前沢の25歳厄年連
- ❷平成 21 年前沢 42 歳厄年連
- 母平成 20 年江刺 42 歳年祝連
- ⑤演舞後、手を取り合う25歳の各会長

5= 広報 おうしゅう